

## 間伐方法現地検討会を開催しました

間伐の推進には、森林所有者の理解に加え、収入額又は負担額がどの程度になるのかわかることが間伐の実施の決め手になると考え、昨年度から利用間伐の見積書の作成のための研修会を開催しています。

今年の間伐の研修会は、午前と午後の部に分け、午前は、昨年間伐の研修会を行なった現地で、昨年作成した見積書と実際に間伐を行なった精算署を比較し検証を行ないました。

検証の結果、見積では、約3万円の収入になる見込みでしたが、見積時期(12月)に比べ、木材販売(翌年4月)時期では、素材の価格が下がったこと、また、虫食いや被害材が多く、材利用見込みが甘かったこともあり、精算結果は、赤字となりました。幸い、これには助成がありましたので幾らかの収入になりましたが、今回改めて見積の難しさを痛感しました。

午後は、一関市室根町字折壁地内にあるスギ林において間

伐方法検討会を開催しました。

参加者は、昨年と同様に推進側に立った関係者で一関市、森林組合、県の職員及び林研グループの会員が3班に分かれて毎木調査(53年生0.3ha)を行ない間伐木を選定しました。



次に室内で間伐木の材積を求め、班毎に間伐材販売額、それに係る経費を算定し見積書を作成しました。最後に各班から見積書の説明をしてもらい意見交換を行ないました。

今回は出材割合の単価設定を重点に研修しましたが、搬出経費算定も実施を判断する大きな因子となるため、森林を評価する知識や技術の向上の必要性をさらに強く感じました。